

はじめに

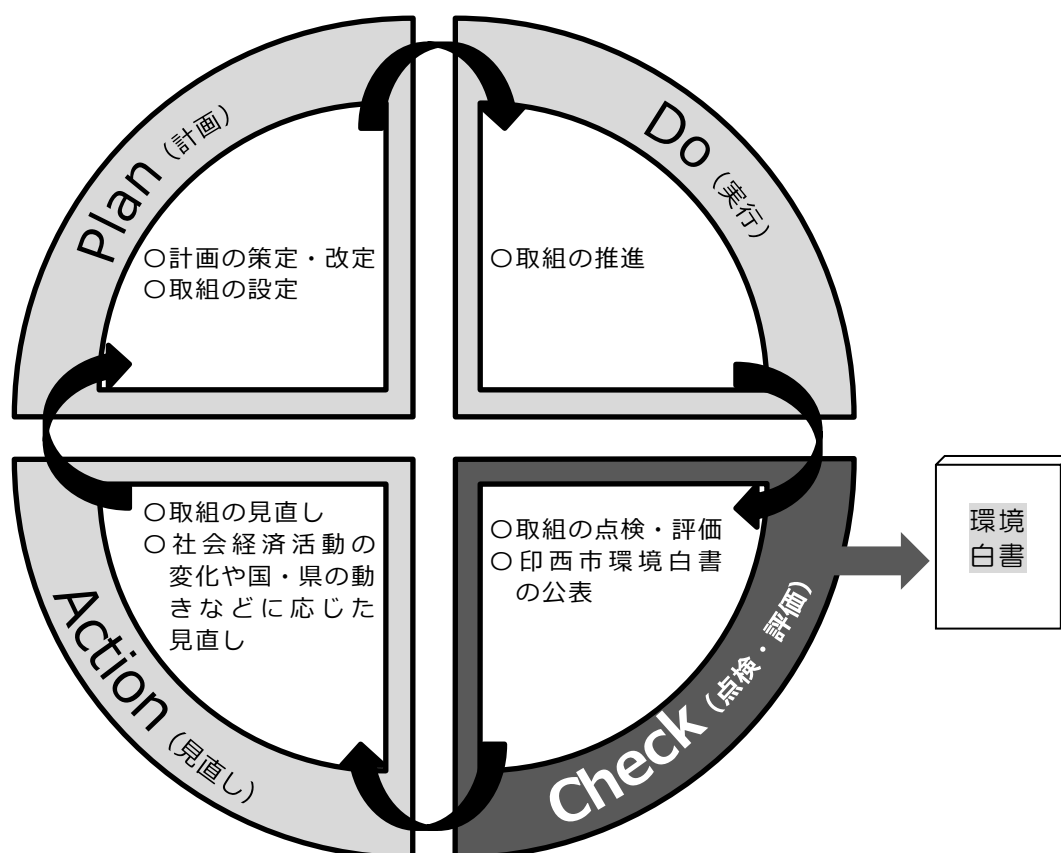
1 印西市環境白書作成の趣旨

本市では、令和4（2022）年3月に第3次印西市環境基本計画※を策定しました。環境基本計画は、印西市環境基本条例※に基づき、環境の保全に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための計画です。また、地球温暖化の進行を抑制するための地球温暖化対策実行計画（区域施策編）と、避けられない気候変動影響を回避・軽減するための地域気候変動適応計画を内包しています。さらに、印西市庁内エコプラン※に基づき、庁内の地球温暖化対策を進めています。（下図参照）

環境基本計画と庁内エコプランは、取組の進捗状況を年度ごとに点検・評価し、その結果を次の取組にフィードバックする Plan・Do・Check・Action を繰り返す仕組み（PDCA サイクル）によって、進行管理を行います。

印西市環境白書は、環境基本計画と庁内エコプランの年度ごとの取組状況や目標の達成状況の報告書として、市民の皆様にご公表するものです。また、各種の測定データなどの本市の環境に関する情報をとりまとめたデータ集として、広く周知するものです。

《 環境白書の位置づけ 》



本文中、※印の付いている用語の解説は、資料編 P.50 用語解説をご覧ください。

2 印西市環境基本計画

本市は、里山※や水辺などの豊かな自然環境に恵まれた地域であるとともに、千葉ニュータウンに代表される機能的・都市的利便性の高い地域を持つまちでもあります。本市の将来に向けては、自然と暮らしが調和した社会を構築するとともに、自然との共存を意識した行動を心がけることが重要です。

このため、第3次印西市環境基本計画では、本市が目指す将来環境像を「みんなでつくる 自然と暮らしが調和した快適でやさしいまち いんざい」と定め、これらを実現するための5つの基本目標と12の個別目標を設定し、取組を展開していきます。

本環境白書は、5つの「基本目標」と具体的な取組に向けた12の「個別目標」に沿って記載しています。

《 将来環境像と施策体系 》

将来環境像 みんなでつくる 自然と暮らしが調和した快適でやさしいまち いんざい	基本目標1 【自然環境】	豊かな自然の恵みを受け潤いと安らぎを感じられるまちづくり 個別目標 (1)谷津と台地を中心とした里山の保全 (2)生きものの生息・生育空間の保全 (3)暮らしと自然のつながりの確保
	基本目標2 【生活環境】	安心して快適なずっと住み続けたいと思えるまちづくり 個別目標 (1)良好な生活環境の保全 (2)有害化学物質対策の推進
	基本目標3 【循環型社会】	限りある資源を有効に活用した持続可能な美しいまちづくり 個別目標 (1)不法投棄やポイ捨ての抑制・防止対策の推進 (2)3R※(リデュース・リユース・リサイクル)の推進
	基本目標4 【脱炭素社会】	カーボンニュートラル※の実現に向けた地球環境にやさしいまちづくり 個別目標 (1)温室効果ガス※の排出抑制 (2)気候変動への適応 (3)市の率先行動の推進
	基本目標5 【人づくり】	パートナーシップを構築し協働で環境保全に取り組むまちづくり 個別目標 (1)自ら学び行動する人づくりの推進 (2)環境配慮行動の推進

さらに、本市の目指す将来環境像「みんなでつくる 自然と暮らしが調和した快適でやさしいまち いんざい」を実現していく上では、環境基本計画に示した分野別の環境施策がそれぞれ相互に密接な関係にあることを踏まえ、複数の環境課題の同時解決を見据えた分野横断的な取組の実施が求められます。

このため、環境基本計画に示した分野別の施策の中から、特に重要かつ効果的なものを組み合わせた3つの重点的な取組として、「自然の力を活かそう！グリーンインフラ大作戦！！」、「ライフスタイルを見直そう！サステナブル大作戦！！」、「CO₂を減らそう！ストップ温暖化大作戦！！」を選定しました。

市民・事業者・行政が一体となり、互いに連携しながら、これらの重点的な取組を推進していきます。

	1. 自然環境 豊かな自然の恵みを受け潤いと安らぎを感じられるまちづくり	2. 生活環境 安心して快適なずっと住み続けたいと思えるまちづくり	3. 循環型社会※ 限りある資源を有効に活用した持続可能な美しいまちづくり	4. 脱炭素社会※ カーボンニュートラルの実現に向けた地球環境にやさしいまちづくり	5. 人づくり パートナーシップを構築し協働で環境保全に取り組むまちづくり
取組1 自然の力を活かそう！ グリーンインフラ大作戦！！	◎	○		○	◎
取組2 ライフスタイルを見直そう！ サステナブル大作戦！！	◎		◎	○	◎
取組3 CO ₂ を減らそう！ ストップ温暖化大作戦！！	◎		◎	◎	○

◎ …重点的な取組を構成する基本目標

○ …重点的な取組により貢献する他分野の基本目標

3 環境指標の達成状況

環境基本計画では、将来環境像の実現と目標の達成を目指すため、施策の進捗状況を計る「環境指標」を設定しています。

12 の個別目標ごとに環境指標が設定されており、計画の目標値や基準年度との比較により、継続的に点検・評価を行っています。

令和 6（2024）年度版の環境白書では、令和 5（2023）年度の実績値をとりまとめ、基準年度（令和 2（2020）年度）の数値と中間目標年度である令和 8（2026）年度の目標値と比較し評価を行いました。

《 環境指標の評価の見方 》

評 価	評 価 内 容
☆☆☆	目標値を達成することができました。
☆☆	基準年度と比較して、目標値に近づいています。
☆	基準年度と比較しても目標値に近づいていません。
—	現状値の把握をしていません。

環境基本計画は、印西市総合計画を踏まえ策定していくという観点から、令和 4（2022）年度から令和 13（2031）年度までの 10 年間を計画期間として設定しています。

計画の推進にあたっては、毎年、進捗状況を点検するとともに、社会経済活動の変化や国・県の動きなどに応じて、計画の施策内容や指標などについて見直しを行います。

《 印西市環境基本計画の計画期間 》

年度	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)	R13 (2031)	R14 (2032)
総合計画	印西市基本構想										
	第 1 次基本計画				第 2 次基本計画						

環境基本計画	第 3 次印西市環境基本計画										
	社会経済活動などの 状況に応じて見直し								計画期間満了 に伴う見直し		次期計画

■ 環境指標（基本目標 1（1）～ 2（1））

基本 目標	個別 目標	環 境 指 標	基準年度	中間目標	R5(2023)年度 実績	評価
			R2(2020)年度現状	R8(2026)年度		
1 自然環境	(1)	里山保全活動 団体数	12 団体	現状以上	15 団体	☆☆☆
		里山保全回数	11 回	現状以上	18 回	☆☆☆
		農振農用地※面積	3,101 ha	現状維持	3,099ha	☆
		認定農業者及び 認定新規就農者※数	67 経営体	77 経営体	69 経営体	☆☆
		遊休農地※面積	251ha	現状以下	248 ha	☆☆☆
		多面的機能支払 交付金※交付団体数	11 団体	現状以上	13 団体	☆☆☆
	(2)	在来種の生息・生育 種数	植物 682 種 動物 848 種	現状維持	—	—
		外来種の生息・生育 種数	植物 285 種 動物 44 種	現状以下	—	—
	(3)	公園美化活動の団体 数	26 団体	29 団体	31 団体	☆☆☆
		道路美化活動の団体 数	15 団体	現状以上	17 団体	☆☆☆
		文化財指定数	49 件	現状以上	49 件	☆☆☆
2 生活環境	(1)	二酸化窒素(NO ₂)※ 濃度	0.024 ppm※	千葉県環境目標 値(0.04 ppm)以下 を維持	0.023 ppm	☆☆☆
		浮遊粒子状物質 (SPM)※濃度	0.038 mg/m ³	環境基準※ (0.10 mg/m ³)以下 を維持	0.030 mg/m ³	☆☆☆
		光化学スモッグ※注意 報発令回数	0 回	現状維持	1 回	☆
		亀成川の BOD※濃度	2.0 mg/L	環境基準 (3 mg/L) 以下を維持	0.9 mg/L	☆☆☆
		神崎川の BOD 濃度	0.9 mg/L	環境基準 (2 mg/L) 以下を維持	1.5 mg/L	☆☆☆
		師戸川の BOD 濃度	6.8 mg/L	環境基準 (3 mg/L) 以下を維持	9.2 mg/L	☆
		印旛沼の COD※濃度	12.0 mg/L	環境基準 (3 mg/L) 以下を維持	15 mg/L	☆
		手賀沼の COD 濃度	11.0 mg/L	環境基準 (5 mg/L) 以下を維持	11 mg/L	☆

備考) 1-(1)「里山保全回数」は、市が実施した里山保全回数をカウントしています。

1-(1)「遊休農地面積」の基準年度(令和 2(2020)年度)値は、耕作放棄地の定義の見直しに伴い、1 号、2 号遊休農地の数値を採用したため、「第 3 次印西市環境基本計画」に掲載した値とは異なります。

1-(2)「在来種の生息・生育種数」と「外来種の生息・生育種数」については、自然環境調査を 5 年に 1 回程度実施することとし、定期的に現状を把握しています。直近の自然環境調査は令和 2(2020)年度に実施しました。

2-(1)河川の BOD 濃度は、市が実施した水質測定の結果を示しています。水質汚濁防止法の規定に基づく、公共用水域の水質測定点とは異なります。

■ 環境指標（基本目標 2（1）～ 3（2））

基本目標	個別目標	環境指標	基準年度	中間目標	R5(2023)年度実績	評価
			R2(2020)年度現状	R8(2026)年度		
2 生活環境	(1)	地下水の水質汚濁に係る環境基準(28項目)	調査2地点全項目基準を達成	全調査地点・全項目の基準達成	調査地点2地点のうち2地点で基準を達成	☆☆☆
		下水道普及率※	83.0 %	85.0 %	82.1 %	☆
		下水道整備率※	96.0 %	現状以上	96.1 %	☆☆☆
		合併処理浄化槽※普及率	82.8 %	現状以上	86.2 %	☆☆☆
		合併処理浄化槽設置基数(補助対象分累計)	3,588 基	4,160 基	3,892 基	☆☆
		土壌の汚染に係る環境基準(29項目)	調査3地点全項目基準を達成	全調査地点・全項目の基準達成	調査地点1地点のうち1地点で基準を達成	☆☆☆
		道路交通騒音測定値	調査4地点で環境基準を達成	全調査地点・全項目の基準達成	調査地点5地点のうち5地点で基準を達成	☆☆☆
	(2)	ダイオキシン類※大気環境濃度	印西市役所 0.035 pg-TEQ/m ³ 印西高花測定局 0.066 pg-TEQ/m ³	0.6 pg-TEQ/m ³ 以下を維持(環境基準)	印西市役所 0.018 pg-TEQ/m ³ 印西高花測定局 0.019 pg-TEQ/m ³	☆☆☆
		印西クリーンセンターにおけるダイオキシン類測定値	1号炉 0.041 ng-TEQ/Nm ³ 2号炉 0.022 ng-TEQ/Nm ³	1 ng-TEQ/Nm ³ 以下を維持(排出基準)	1号炉 0.067 ng-TEQ/Nm ³ 2号炉 0.025 ng-TEQ/Nm ³	☆☆☆
			3号炉 0.040 ng-TEQ/Nm ³	0.5 ng-TEQ/Nm ³ 以下を維持(排出基準)	3号炉 0.0038ng-TEQ/Nm ³	☆☆☆
		公共施設における空間放射線量達成率	全地点の基準達成(172地点)	全地点の基準達成	全地点の基準達成	☆☆☆
3 循環型社会	(1)	ゴミゼロ運動※参加団体数	193 団体 (R1(2019))	195 団体	151 団体	☆
		クリーン印西推進運動※参加団体数	166 団体 (R1(2019))	現状以上	161 団体	☆
		市民からの不法投棄通報件数	59 件	40 件	20 件	☆☆☆
	(2)	1人1日当たりのごみ排出量	884 g	747 g	817 g	☆☆
		生ごみ処理容器等購入費補助交付基数	87 基	現状以上	126 基	☆☆☆
		ごみ減量化等説明会実施回数	19 回 (R1(2019))	現状以上	2 回	☆

備考) 2-(2)「印西クリーンセンターにおけるダイオキシン類測定値」は、印西地区環境整備事業組合の提供資料によります。
 なお、3号炉については「印西クリーンセンターの操業及び公害防止に関する協定書」により、排出ガスの基準が 0.5 ng-TEQ/Nm³以下と定められています。
 3-(1)「ゴミゼロ運動参加団体数」と「クリーン印西推進運動参加団体数」、3-(2)「ごみ減量化等説明会実施回数」の基準年度値については、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して令和元(2019)年度の実績としています。

■ 環境指標（基本目標４（１）～５（２））

基本目標	個別目標	環境指標	基準年度	中間目標	R5(2023)年度実績	評価
			R2(2020)年度現状	R8(2026)年度		
4 脱炭素社会	(1)	市域の温室効果ガス排出量	600.1 千 t-CO ₂ (H25(2013))	現状以下	709.1 千 t-CO ₂ (R2(2020))	☆
		定置用リチウムイオン蓄電システム導入補助件数(補助対象分累計)*	309 件	700 件	721 件	☆☆☆
		ふれあいバス利用者数	245,944 人 (R1(2019))	現状以上	276,498 人	☆☆☆
		市内駅の 1 日平均乗車人員	29,930 人 (R1(2019))	現状以上	26,468 人	☆
	(2)	自主防災組織活動カバー率*	80 %	現状以上	80.1%	☆☆☆
		気候変動の適応に関する情報提供回数	10 回	現状以上	15 回	☆☆☆
	(3)	市の事務事業に伴う温室効果ガス排出量	7,070 t-CO ₂ (H25(2013))	6,784 t-CO ₂	7,016 t-CO ₂	☆☆
		公共施設における再生可能エネルギー*発電設備の導入施設数	5 施設	7 施設	8 施設	☆☆☆
		公用車における環境性能に優れた自動車導入数(累計)	28 台	43 台	41 台	☆☆
5 人づくり	(1)	環境情報の提供回数	24 回	現状維持	24 回	☆☆☆
		環境講座・イベントなどの開催回数(市主催事業)	22 回 (R1(2019))	現状以上	15 回	☆
		学校図書館における環境教育に関する蔵書保有校数	27 校(全校)	全校を維持	27 校(全校)	☆☆☆
	(2)	環境保全活動団体数	33 団体	現状以上	36 団体	☆☆☆
		市民・事業者との協働による環境保全活動実施回数	9 回	現状維持	9 回	☆☆☆
		環境配慮行動指針リーフレットの配布数	500 部	現状以上	330 部	☆

備考) 4-(1)「市域の温室効果ガス排出量」については、当該年度のデータを把握できないため、3 年度前のデータを実績として報告しています。また、基準年度値については、「地方公共団体実行計画(区域施策編)策定・実施マニュアル(算定手法編)」(令和 6(2024)年 4 月、環境省)に基づいて算定し直したため、「第 3 次印西市環境基本計画」に掲載した値とは異なります。

4-(2)「定置用リチウムイオン蓄電システム導入補助件数(補助対象分累計)」については、令和 5(2023)年度版印西市環境白書にて公表した令和 4(2022)年度実績値に誤りがあったため、修正したうえで、令和 5(2023)年度分の補助件数を加算しています(令和 4(2022)年度実績値は正しくは 583 件)。

4-(1)「ふれあいバス利用者数」と「市内駅の 1 日平均乗車人員」、5-(1)「環境講座・イベントなどの開催回数」の基準年度値については、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して令和元(2019)年度の実績としています。

4-(3)「市の事務事業に伴う温室効果ガス排出量」の基準年度値については、平成 25(2013)年度の実績としています。

4 環境の現状と課題

■ 基本目標 1 豊かな自然の恵みを受け潤いと安らぎを感じられるまちづくり

「基本目標 1」は、緑・水辺の保全や豊かな生態系※の維持、暮らしに潤いと安らぎを与える環境に関する分野です。谷津と台地を中心とした里山の保全、生きものの生息・生育空間の保全、暮らしと自然のつながりの確保に取り組むための施策群で、環境指標は 11 項目を設定しています。令和 5（2023）年度は、目標達成が 7 項目（64%）、基準年度に比べて目標に近づいているものが 1 項目（9%）、基準年度に比べて目標に近づいていないものが 1 項目（9%）でした。「在来種の生育・生息種数」「外来種の生育・生息種数」の 2 項目については、5 年ごとの自然環境調査の結果に基づきデータを把握しており、次回は令和 7（2025）年度に調査実施予定のため、令和 5（2023）年度の実績評価はなしとしています。

豊かな自然の恵みを受け潤いと安らぎを感じられる環境を将来にわたって残していくために、本市を特徴づける里山の保全管理に取り組むとともに、生物多様性※の維持に向けた自然環境調査の継続や希少な動植物の保全、暮らしの中で緑を身近に感じられるまちづくりに努めていきます。

■ 基本目標 2 安心して快適なずっと住み続けたいと思えるまちづくり

「基本目標 2」は、日常生活における大気、水質、土壌、騒音、振動、悪臭※など、身近な環境に関する分野です。良好な生活環境の保全、有害化学物質対策の推進に取り組むための施策群で、環境指標は 19 項目を設定しています。令和 5（2023）年度は、目標達成は 13 項目（68%）、基準年度に比べて目標に近づいているものが 1 項目（5%）、近づいていないものが 5 項目（26%）でした。

安心して快適なずっと住み続けたいと思える環境を確保するために、定期的に大気や水質などの監視・測定を行うとともに、印旛沼・手賀沼などの水質改善等の広域的な環境課題には、周辺自治体や県のもと取組の検討・実施を進めます。また、有害化学物質などの測定結果を公表し、市民・事業者との情報の共有化にも取り組んでいきます。

■ 基本目標 3 限りある資源を有効に活用した持続可能な美しいまちづくり

「基本目標 3」は、日常生活や産業活動から排出される廃棄物に関する分野です。不法投棄やポイ捨ての抑制・防止対策の推進、3R（リデュース・リユース・リサイクル）の推進に取り組むための施策群で、環境指標は 6 項目を設定しています。令和 5（2023）年度は、目標達成が 2 項目（33%）、基準年度に比べて目標に近づいているものが 1 項目（17%）、近づいていないものが 3 項目（50%）でした。

限りある資源を有効に活用した持続可能な美しいまちづくりに向けて、ごみがなく人の手が入っていることが感じられる「捨てられにくい環境づくり」に努めるとともに、「ごみを作らない」意識の啓発に努め、3R 運動の更なる推進に取り組んでいきます。循環型社会の実現のため、市民・事業者とのより一層の連携の強化を図ります。

■ 基本目標 4 カーボンニュートラルの実現に向けた地球環境にやさしいまちづくり

「基本目標 4」は、地域や国を超えたグローバルな視点に立った環境に関する分野です。温室効果ガスの排出抑制、気候変動への適応、市の率先行動の推進に取り組むための施策群で、環境指標は9項目を設定しています。令和5(2023)年度は、目標達成が5項目(56%)、基準年度に比べて目標に近づいているものが2項目(22%)、近づいていないものが2項目(22%)でした。

カーボンニュートラルの実現に向けた地球環境にやさしいまちづくりに向けて、日常生活や事業活動に伴う温室効果ガスの排出量を削減するための再生可能エネルギーの利用促進や省エネルギーの推進に取り組むとともに、モビリティの低炭素化などによる環境に配慮したまちづくりを推進します。さらに、気候変動への適応策として、市民・事業者への情報提供に努めるほか、庁内エコプランに基づき、市の率先行動を推進します。

■ 基本目標 5 パートナーシップを構築し協働で環境保全に取り組むまちづくり

「基本目標 5」は、市内で暮らし学び働く全ての人を対象とした環境教育・環境学習や環境活動・情報発信など全てに共通する分野です。自ら学び行動する人づくりの推進、環境配慮行動の推進に取り組むための施策群で、環境指標は6項目を設定しています。令和5(2023)年度は、目標達成が4項目(67%)、基準年度に比べて目標に近づいていないものが2項目(33%)でした。

パートナーシップを構築し協働で環境保全に取り組むまちづくりに向けて、今後も、環境講座・イベント、自然体験学習など、環境保全に関する学習機会の提供に努めるとともに、環境行動指針の普及啓発や環境保全活動団体への支援、企業との提携などを通じて、各主体による環境配慮行動の定着を図ります。

■ 令和5(2023)年度のまとめ

令和5(2023)年度における環境指標全51項目の状況は、令和8(2026)年度の間目標を既に達成した項目が31項目(61%)、基準年度に比べて目標に近づいているものが5項目(10%)、近づいていないものが15項目(29%)でした。なお、基本目標1の環境指標のうち、「在来種の生育・生息種数」「外来種の生育・生息種数」の2項目については、5年ごとの自然環境調査の結果に基づきデータを把握しており、次回は令和7(2025)年度に調査実施予定のため、令和5(2023)年度の実績評価はなしとしています。

環境指標は概ね達成されており、全体として市の環境の状況は良好でした。一方で、市域の温室効果ガス排出量や環境講座・イベントなどの開催回数など目標に近づいていない項目、さらに市の事務事業に伴う温室効果ガス排出量や1人1日当たりのごみ排出量など目標に近づいているものの達成していない項目は、今後も取組を推進する必要があります。

市民・事業者・市が一体となり、環境問題の解決に取り組むことができるよう、環境施策の充実を図るとともに、市民・事業者の環境配慮行動の普及促進に努めます。

